

『症例解析&文献評価ワークショップ 2021-2 : 心不全』

【基礎編】 Web 開催

病棟や在宅で、目の前の患者に対する最適な薬物治療法の評価・提案方法がわからない、診療ガイドラインは一読したが、目の前の患者への活用方法に自信がない。薬物動態情報を評価し治療に適用していく方法がわからない。論文を読む機会が少なく読み方・評価方法がわからない、症例への適用に悩んでいる。そのような経験はありませんか？本ワークショップではこれらの基礎を学び、実際に症例解析もしくは文献評価に取り組むことで「**症例の治療を評価する力**」と「**文献を批判的に吟味する力**」を身につけます。

今回の対象疾患は「**心不全**」です。特に入門基礎を意識した内容にしております。本ワークショップを通じて、心不全に対する薬物治療への取り組みの基礎を習得しませんか？多くの先生方のご参加をお待ちしております。

過去の開催記録：<https://www.applied-therapeutics.org/page18.html>

開催日時：2022年3月20日(日) 10:00~18:00

開催：Web 開催(Cisco Webex Meetings を使用)

定員：症例解析コース^{※1} 40名、文献評価コース^{※2} 30名
プリセプター10名(PK、症例評価、各5名)

参加費：正会員^{※3} 4,500円、非会員 9,500円、学生 500円(事前銀行振込)

- ・参加予定コースについて本ワークショップの第14回以降の開催回に一度以上のご参加経験がある方：
正会員 3,000円、非会員 7,000円となります。
- ・お申し込み後に振込方法を記載したメールをお送りしますので、2週間以内にお振込みをお願い致します。
- ・振込後にキャンセルされた場合には、返金いたしません。

申込方法：下記 URL から必須事項を入力の上、お申込みください。

申込フォーム URL: <https://forms.gle/kZz51Y2KmLxBdFNR7>

申し込み締め切り：3月6日〔延長いたします〕

【認定単位】日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師講習会の認定、日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位、薬局共創未来人材育成機構薬剤師研修センター(G18)研修認定単位、日本薬剤師研修センター(G01)のいずれかの取得(それぞれの団体に申請中です)が可能です。また、本学会のワークショップ認定指導者の認定要件となっています。ご希望頂きたいいずれか一つの団体の単位を交付いたします。

※1 症例解析コースは一般社団法人薬局共創未来人材育成機構の「高齢者薬物治療認定薬剤師制度」症例検討 WS-IV(高齢者薬物治療認定薬剤師制度の認定要件となるワークショップ)も兼ねております。また、一般社団法人医薬教育倫理協会とも共催となります。

※2 文献評価コースは、東京理科大学研究推進機構総合研究院アカデミック・ディテリング・データベース部門、一般社団法人 医薬教育倫理協会との共催となります。

※3 正会員の初年度年会費は4000円となります。

お問い合わせ先：ワークショップ組織委員会 緒方宏泰 AT.workshop202@gmail.com

主催：[日本アプライド・セラピューティクス\(実践薬物治療\)学会](#)

共催：[一般社団法人薬局共創未来人材育成機構](#)、[一般社団法人 医薬教育倫理協会](#)

[東京理科大学研究推進機構総合研究院アカデミック・ディテリング・データベース部門](#)

コースの概要

症例解析コース

症例解析(PK)：講師；緒方宏泰（明治薬科大学名誉教授）

全身適用の医薬品では、薬物の効果、作用は血中の薬物濃度（正確には非結合形濃度）を原因要因として発現していると考えられます。そのため、臨床薬物動態試験情報は、適正な薬物治療を進める上で不可欠な情報の一つです。薬物は全身循環血を介して分布し、臓器に運ばれ消失するため、薬物の体内動態を決定している因子の推定は、全血中総薬物濃度値をもとに推定されます。しかし、一般に臨床薬物動態情報は血漿中総薬物濃度で測定されていますので、その値からは正確な体内動態の決定因子が推定できないケースがあります。また、効果、作用と関連をつけるためには、血中非結合形薬物濃度の変化が必要ですが、一般には血漿中総薬物濃度の変化で推定されており、的確な判断がされていないケースがあります。以上の様な臨床薬物動態情報の問題点を克服して的確な推定を行う為の取り組み方を、心不全に用いる薬物も例に挙げて、考えたいと思います。

症例解析(症例評価)：講師；志賀 剛（慈恵医科大学臨床薬理学／東京女子医科大学循環器内科）、本石寛行（草加市立病院薬剤部）

今回は心不全をテーマに、心不全患者の身体所見や検査データからどのように評価し、薬物治療を組み立てていくか、症例を通じて診療ガイドラインから日常診療で役立つポイントまで織り交ぜながら議論していきます。このため、心不全患者の基本的な血行動態の見方、評価法について事前に講義をいたします。また、この1年で新しい心不全治療薬が登場し、治療も大きく転換してきています。この点についても触れたいと思います。

文献評価コース

文献評価：講師；花井雄貴（東邦大学医療センター大森病院薬剤部）

現在では、適切なエビデンスに基づいて薬物治療が議論されるべきであるとする考え方が広く受け入れられています。特に循環器領域において最良の治療を選択するためには、大規模臨床試験や観察研究によるエビデンスを十分に認識し、それらをもとに客観的に判断する、すなわち、evidence based medicine (EBM) を実践する必要があります。そこで今回、日常診療でよく遭遇する『心不全の薬物治療』に焦点を当て、近年報告された無作為化比較試験を取り上げながら、英語が苦手な初心者の方にもわかりやすく“文献を読む際に注目すべきポイントを1から解説”します。また、講義と演習（ディスカッション）を通じて記載された方法・結果・統計・図表データ等から把握すべき情報を正確に読み取ることに加え、批判的に吟味したうえで、治療法の有効性や安全性、予後などを自ら評価できるようになることを目指します。これまで英語論文に触れる機会がなかった皆様、論文内容を適切に把握・活用したいとお考えの皆様、心不全領域に興味のある皆様、また、保険薬局・病院・企業をはじめ多くの皆様に本ワークショップへご参加いただけますと幸いです。

<事前講義>

症例解析コース	文献評価コース
講義1：「心不全とは」 講師：慈恵医科大学臨床薬理学／東京女子医科大学循環器内科 志賀 剛 先生	講義：「臨床試験論文の批判的吟味と患者への適用 講義及び演習」 講師：東邦大学医療センター大森病院 薬剤部 花井雄貴 先生
講義2：「薬物治療を科学ベースで、的確、妥当に進めるために、臨床薬物動態情報を考える」 講師：明治薬科大学名誉教授 緒方宏泰 先生	

課題の取り組みのため、事前視聴用の講義（症例解析コース（講師：緒方宏泰、志賀剛）、文献評価コース（講師：花井雄貴））をご用意しています。3月20日までにご視聴いただき、演習課題に取り組んでご参加下さい。

<3月20日>

時刻	症例解析コース（小グループに分かれた演習を含みます）	文献評価コース（全員が一堂に会し行います）
10:00～10:20	開催趣旨説明	
10:20～12:00	「事前 PK 演習課題」演習及び解説（緒方）	「課題文献（心不全の薬物治療のRCT）の批判的吟味」講義及び演習（花井）
12:00～12:50	昼食	
12:50～13:50	「心不全治療薬の薬物動態」演習及び解説（緒方）	「課題文献（心不全の薬物治療のRCT）の批判的吟味」講義及び演習（花井）
13:50～14:00	休憩	
14:00～17:30	「心不全患者への薬物治療評価」演習及び解説（本石）	
17:30～18:00	まとめ、閉会式	

※ 演習課題を事前にお送りしますので、取り組んでご参加下さい。尚、事前視聴用講義、当日取り組みます演習課題は第19回ワークショップと同様のものを用います。